

都市再生協議会 第2回会合 議事概要

1 会合概要

開催日時：令和8年2月24日（火）10：00～12：00

開催場所：今治市役所本館 2階 庁議室

開催目的：今治市中心市街地グランドデザインに基づく都市再生に向けた議論

主なテーマ：広小路の再編整備案・社会実験、商店街、ネウボラ拠点施設、合同庁舎整備、MICE 施設、その他

2 発言概要

（1）広小路の再編整備案・社会実験について

- ・港の賑わいや人の流れの変化を踏まえ、将来の交通量や利用状況も見据えた社会実験の計画が重要。
- ・広小路の整備は中心市街地全体のまちづくりと密接に関係しており、商店街や港との連携を意識する必要がある。
- ・市民の皆さんの注目が集まる社会実験のタイミングで、使い方や維持費等さまざまな案を示すことを検討する必要がある。
- ・道路管理者の立場から、車道幅員が狭くなることによる安全性や円滑な交通確保について懸念がある。
- ・クスノキの成長による枝葉の張り出しや倒木リスクなど、維持管理面も考慮する必要がある。
- ・専門部会では交通処理や空間利用などハード面と、地域主体の関わり方などソフト面の両方を議論している。
- ・沿道事業者からは賛否両論の意見があり、社会実験を通じて実際の影響を検証することが重要。
- ・コア会議やワーキンググループを通じて、事業者や地域の主体的な参画を促す仕組みづくりが必要。
- ・ウォーカブルなまちづくりの観点から、自転車や公共交通とのバランスを考えた空間設計が求められる。
- ・自転車通行帯の位置によっては荷捌き車両が停車できず、自転車と車両の接触事故の懸念がある。
- ・中央広場の幅を調整し、自転車通行空間を中央部に配置するなどの案も検討できるのではないかと。
- ・落ち葉清掃などクスノキの維持管理の負担や管理主体について整理が必要。
- ・高齢者や車いす利用者などを考慮した路面材やバリアフリーの視点が重要。
- ・クスノキの存置は空間再配分が制限される面もあり、伐採を検討してはどうか。

100 年に 1 度のまちづくりの機会として、これにこだわらずゼロベースで空間利用を検討することも寄付者の思いをつなぐことになるのではないかと。

- ・新たな公共施設の整備により都市の中心が変わる可能性があり、バスルートなど交通体系の見直しも検討できる。

- ・市民が完成イメージを理解できるよう、パース図やCG、VR などによる分かりやすい提示が望ましい。

- ・社会実験では複数の整備パターンを試し、市民アンケートなどで評価を確認することも有効ではないかと。

- ・街路樹の種類や配置についても、景観や維持管理コストを含めて検討する必要がある。

- ・将来の維持費や管理負担も考慮し、持続可能な広小路再編整備内容とすることが重要。

- ・他都市の事例も参考に、自動車や自転車の通行のあり方も大切だが、人中心の空間づくりを検討し、市民や観光客が行きたくなる魅力的な広小路とすることが重要ではないかと。

- ・広小路と港、商店街を一体的に活性化させることで、中心市街地全体の賑わいにつながる。

- ・広小路の再編整備では、維持費など運営面の課題も重要であるとともに、バスや自転車の扱いなども含め、安全性の確保が、人が集まるための重要な条件である。

（２）商店街について

- ・広小路再編整備を行う場合、商店街の活性化とのバランスを考える必要がある。

- ・商店街の建物は個人所有であり、世代交代に伴う空き地や駐車場化などの変化は避けられない可能性がある。

- ・商店街を歩行者中心の空間として明確に位置付けるため、車両進入を抑制する仕組みも検討できるとよい。

（３）ネウボラ拠点施設について

- ・ネウボラ拠点施設については中央公民館との兼ね合いにより、各種機能の組み合わせはあったものの、0 から 18 歳までの子供たちの施設というコンセプトで、継続して検討していきたい。

（４）合同庁舎整備について

- ・合同庁舎のあり方については、市と県で協議しながら、人材不足の中での働き方や若い人材の確保も含めて検討し、市民の意見も踏まえつつ前向きに整備を進めていきたい。

（５）MICE 施設について

- ・MICE については、中央公民館のホール機能も含め、旧日吉小学校跡地を活用した構想について、海事都市交流委員会等を通じて引き続き連携していきたい。

（６）その他

- ・中心市街地の再生には、交通や公共空間の整備だけでなく、アニメなども活用するなど、まちの魅力を高める取組が必要。

- ・丹下建築である現庁舎の跡地利用については、維持費等も含め、改めて検討が必要である。

- ・せとうちみなとマルシェについては、港からまちの活性化が目的であるため、開催場所は臨機応変に対応可能。

- ・本会のように、多様な主体が関わり合いながら、良いまちとなってほしい。